



連・載・コ・ラ・ム

# 子育てを考える

第2回

## いっぱいけんかをして、いっぱい泣いて、いっぱい笑える子どもの世界を

社会福祉法人未知の会 花ノ宮保育園 園長 野町 文枝

**前**回、0,1,2歳時期にたっぷり可愛がられて、自己肯定感を築くことの大切さをお伝えしました。

あるがままの自分を受け入れてもらい安定した感情が育つと、子どもはわがままとも思えるくらいいろいろな感情を出すようになります。とても大事なことです。しかし、そのまま大きくなると、自分勝手な人になり周りから敬遠されてしまいます。ここからしつけが始まります。しつけとは人と気持ちよく暮らすためのルールを身につけていくことです。

次はお友だちを求める3歳時期です。

「人が好きになる力、人とうまくやりとりできる力」が育つ大切な時期にはいります。けんかして泣いてもお友だちがいいのです。トラブルに気を遣って子ども同士の遊びを避けるお母さんもいますが、大人になるために必要なことは、子ども同士のかかわりの中でしか育たないことを知っていただきたいのです。

一緒に遊び始めると自分の思い通りにならないことがいっぱい

起こります。友達に立ち向かっていったものの負けて大泣きをしたり、もう少し大きくなると仲間はずれにされたり、悪口を言われて悔しい思いをしたり、どれも「人とうまくやりとりできる力」を身につけ、大人になって人間関係でつまづかないために、この時期の大切な体験です。



子育てに正解はありません。何があってもいいのです。その度に子どもも周りも一生懸命なんとかしようと思えます。心を使うたびに子どもの心は安定して大きくなっていくのです。心配や不安ばかりが先立つと心が縮みます。子どもは笑顔の大人が好きです。まず、お母さんが、心配し過ぎないように気持ちを柔らかくできる方法を見つけましょう。

乳幼児期の大切な子どもの時間は、テレビやビデオをなるべく

控え、脳をしっかり使って心と体を強くする遊びをいっぱいさせてあげたいものです。

そのために、在宅で過ごしておられる子どもたちに遊びを提供し、ストレスのかかりやすいお母さんたちの気持ちを支える事業が県内各地に設けられています。お近くの「つどいのひろば」「児童館」、保育所併設の「地域子育て支援センター」等の事業です。

先日、子育てひろば利用のお母さんから、今まで遊べなかった子どもがよく遊ぶようになったというお話を伺いました。保育所には同年齢の子どもたちが大勢いますので、園庭で一緒に遊びながら学んでいるのですね。お母さんも同年齢の子どもの姿に触れると、うちの子もだけではない。この時期の子どもはみんな同じなのだと思え、また、子どもがどんな遊びを求



めているのかもわかり、家庭での遊びに生かせるようです。

家庭ではなかなかできない砂あそび、水遊び、すっかり馴染んできたお子さんはどろんこ遊びにも挑戦。そのそばにはスタッフがついていろいろな相談にもものっています。しっかり遊んで、帰ってからはお昼寝。その間お母さんもほっと一息。まだ利用したことがない方は、ぜひ、親子で新たな生活を切り開いてみてくださいね。

### 野町 文枝 (のまち ふみえ)

1966年 大学卒業後、東京都にて小学校に勤務  
1969年 高松に移り住み、2年間の幼稚園勤務  
1975年 春日保育園勤務

1992年より、自然界の汚染は食物連鎖で子どもの体を触んでいくことを知り、給食に安全な食材の提供と、EM(有用微生物群)による環境浄化活動に取り組む。

1996年 地域子育て支援センター事業開始  
2010年 花ノ宮保育園勤務

